メキシコ-日本アミーゴ会

# アミーゴ会だより

2019 年 4 月
通巻第 38 号
季刊 2019－II
www.mex-jpn-amigo

発行人：河嶋正之
編集人：河嶋正之
事務局：笠井道彦

メキシコ歴史文化講演会　第 3 回報告

## 「メキシコと米国をめぐる移民問題」

日墨交流会会長・明治大学准教授
アミーゴ会員　　所　康弘

このたびはアミーゴ会会報に拙文を掲載していただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。講演(2018 年 11 月 9 日)では日本とメキシコの貿易関係や北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉についてお話しいたしました。その後、ひとまず新 NAFTA（USMCA）の交渉が 3 ヵ国で合意に至ることで、状況は落ち着いたように思われます。他方、最近は国境の「壁」建設や移民キャラバン問題などが愁眉の課題として、浮上しています。たしかに国際移民を巡る情勢や様々なリスクは近年、重要な社会的・経済的・政治的イシューとなっています。そこで本小論ではそのことについて少し書かせていただきます。

### 移民キャラバン問題の発生

2018 年 10 月 13 日、舞台は中米ホンジュラス。貧困と暴力と汚職に塗れた同国でも最も治安が悪い都市と言われるサンペドロ・スーラを起点にして、数千人もの人々が SNS を利用して同士を募り、巡行（大移動）を開始しました。この移民キャラバン（The Central American migrant caravans）の行先（経由地）はメキシコ、最終目的地はその先の米国でした。

移民キャラバンは、隣国のエルサルバドルやグアテマラの人々をも巻き込みながら膨れ上がり、メキシコ南部国境を突破し、北上を続けました。11 月 4 日にメキシコシティーに、そして 11 月 13 日に米墨国境の近隣都市ティファナまで到達。この間の最大移動距離は約 4,350 キロ。メキシコ内務省によればメキシコシティーにある 400 以上、北部シナロア州などにある 250 以上の仮設シェルターに逗留・経由しながら、11 月下旬の時点で 7,000 人以上が中米諸国（今回は北部三角地帯と呼ばれるホンジュラス、エルサルバドル、グアテマラ）を通過したとのことでした。

他方で、これに対するトランプ政権の対応は、次のようなものでした。2018 年 11 月 6 日に中間選挙を直前に控えていたため、民主党との移民政策の違いを鮮明にするべく移民キャラバンを「侵入者」と激しく罵ったことは、読者の皆様の記憶にも新しいことと思います。そのうえキャラバン参加者には、「犯罪者や得体の知れない中東出身者（“criminals and unknown Middle Easterners”）」も混在していると、強い調子で非難しました。それのみならず、国防総省に新たに 5,200 人もの部隊の国境配備を指示したのでした。

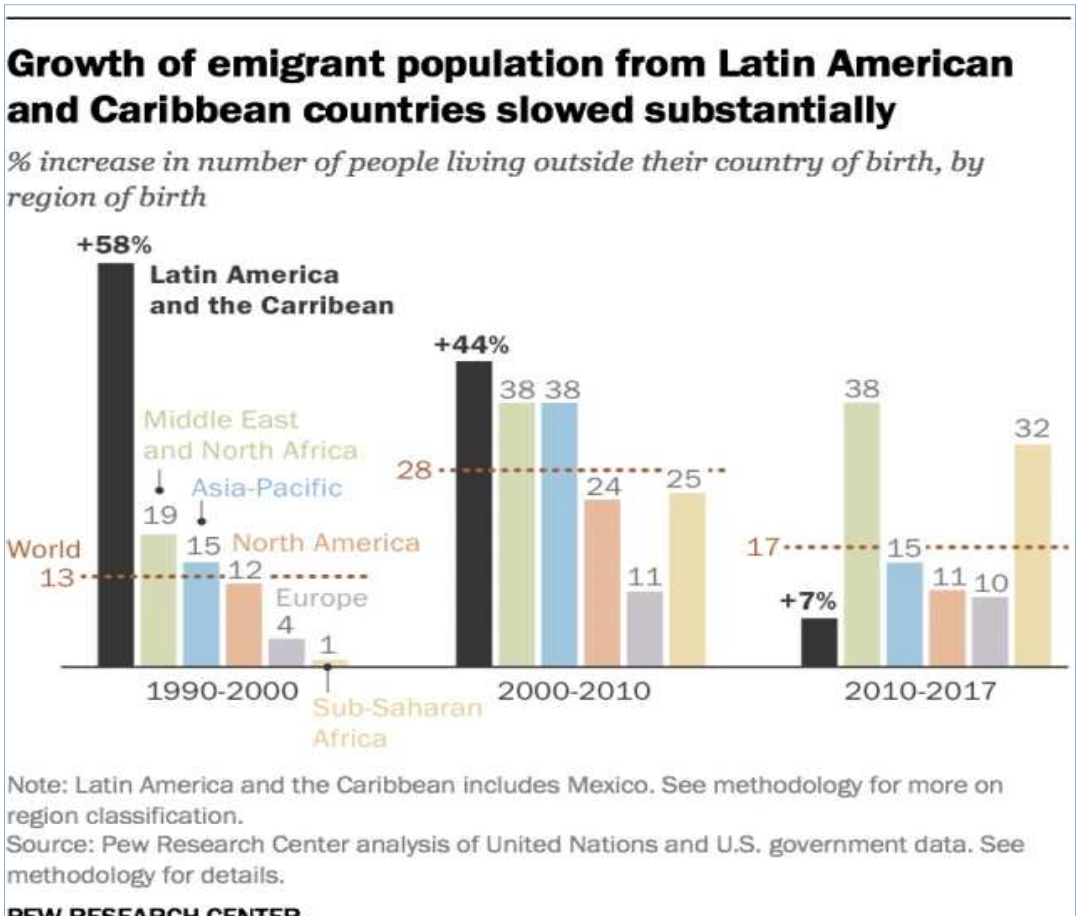
### 最近の移民動向

米国の調査会社 Pew Research Center のデータから近年（1990～2017 年）の国際移民動向を確認してみます。

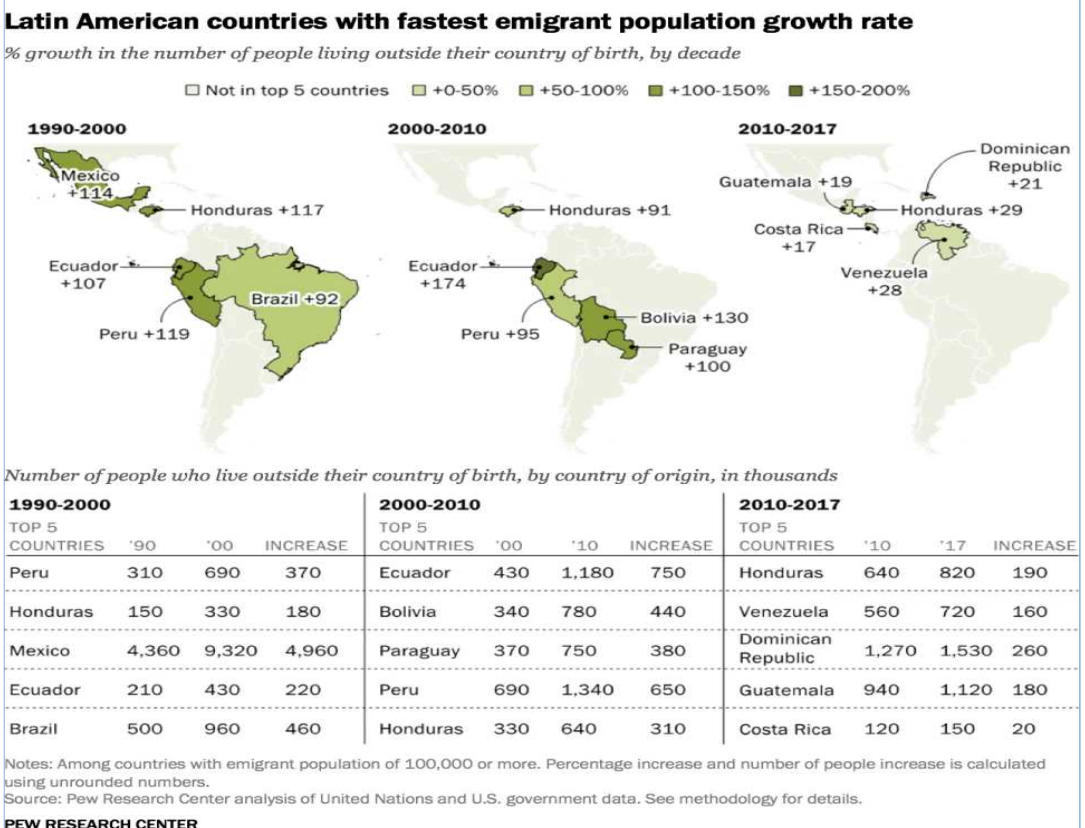
第 1 に 1990～2010 年の中南米（カリブ海地域含む）からの移民（出生国外で暮らす人口）増加率は、世界中で最高値を記録しました（図 1）。しかし、2010 年以降の同率は大幅に鈍化しています。同地域からの増加

＝　目　次　＝

1.第 3 回講演会報告：「メキシコと米国を巡る移民問題」　明治大学準教授　所　康弘　…1
2.第 2 回講演会報告：「日墨外交の潮流：戦後日本とメキシコの政治経済関係」神田外語大学教授　柳沼孝一郎　…4
3.活動報告：「アミーゴ会 2019 年度総会・懇親会の報告」　アミーゴ会事務局長　笠井道彦　…6
4.活動報告：「アミーゴ会西日本：2018 年活動報告」　幹事・西日本代表　市井勇人　…8
5. 私とメキシコ：「食の世界遺産 メキシコ料理へのアプローチ　4」　La Casita オーナーシェフ　渡辺庸生　…8
6.活動報告：「第 19 回 Fiesta Mexicana 2018 in お台場の開催報告」　FM2018 実行委員会　…11
7.お知らせ：「ゴルフ大会 7 月 2 日」…3　／　「20 周年記念昼食会 9 月 21 日」…3　あとがき　…10




**[図 1]** (出所) Pew Research Center HP より転載
URL:http://www.pewresearch.org/fact-tank/2019/01/25/latin-america-caribbean-no-longer-worlds-fastest-growing-source-of-international-migrants/




**[図 2]** (出所) Pew Research Center HP より転載
URL:http://www.pewresearch.org/fact-tank/2019/01/25/latin-america-caribbean-no-longer-worlds-fastest-growing-source-of-international-migrants/

分の大部分を占めていたメキシコ出身者移民の同率が、1990～2000年の 114%から 2000 年代以降は 34%に減速し、特に 2017 年までの 10 年間のメキシコ移民人口数は横ばいだった、というのがその理由になります。

2008 年以降はリーマン・ショックによる米国経済の景気後退による失業・離職、また最近の傾向では強制送還や国境警備の強化などを背景に、米国からメキシコへの移民流出（本国への帰国）が起きました。

第 2 に各国別の動向では、とりわけ 2010 年以降はホンジュラス（29%）とベネズエラ（28%）の増加率が急伸しています（図 2）。その背景には政治的対立や経済的危機、そして暴力の激化・拡大などがあり、ベネズエラはチャベス死去後の政治的・経済的・社会的な混乱状況にあり、またホンジュラスは麻薬絡みの治安悪化が凄まじいです。そのため大規模な人口の国外流出が続いています。

第 3 に、グアテマラ（19%）など中米諸国からの移民も増加しています（図 2）。その理由の一つとして、中米と米国が締結した中米自由貿易協定（CAFTA）によって、ニカラグアやエルサルバドルなども含めて米国からの農産物輸入によって廃業に追い込まれた貧民たちが、やむを得ず不法移民として米国やメキシコなどへ流入しているケースが少なくないからです。

第 4 に、したがって、いまやメキシコは移民を米国へ送り出す一方、中米諸国からの通過移民、あるいは受入移民の増加過程にあるといえます。このように移民過程の形態も多様化し、複雑化しています。

## 移民と米国社会

『A Day Without a Mexican（メキシコ人のいない日）』は、2004 年 5 月に全米公開された社会風刺的な映画です。ご覧になった読者の方もいるかもしれません。ある日突然、ヒスパニック系の人々がカリフォルニアの町から消えたらどうなるか。その内容をつうじて、移民やヒスパニック系の同国における存在感を強烈に印象付けています。料理人、庭師、警官、ベビーシッター、農民、建設労働者、芸術家、運動選手その他・・・。カリフォルニアの人々にとって、これらの職業に従事する無数のヒスパニック系の労働力なしには、もはや社会が成り立たないことを白日のもとに晒したのでした。

にもかかわらず、トランプ米大統領は 2019 年 2 月 15 日、メキシコとの国境沿いに「壁」を建設するための予算を捻出するために、「国家非常事態」を宣言するに至りました。ただし、同月 25 日に米下院は宣言無効の決議案を可決するなど、その先行きは不透明といえます。

【**編集部注**：その後 3 月 14 日、米上院も国家非常事態宣言の無効決議案を可決したため、トランプ大統領は翌日、上下両院の無効決議に拒否権を発動した。しかし、米下院は 3 月 26 日の採決で大統領拒否権を覆せなかったー非常事態宣言の無効化には 3 分の 2 以上の賛成票が必要。他方、翌 27 日付け外電は米国防長官代行の「国防省予算から 10 億ドルをメキシコ国境の壁建設に振り向ける」との発言を伝えている。】

最後に、米国の各産業部門の労働者人口に占める、人種別の構成比率について触れたいと思います。じつはヒスパニック系移民は、他の人種（白人系、黒人やアジア系）があまり従事していない農業や建設業などの肉体労働業種、および単純・低賃金業種である飲食・宿泊業での就業比率が高くなっています。そのため「移民のせいで雇用が奪われた」といった、よく耳にする通説にかんしては、慎重な検証が必要になるでしょう。

ちなみにメキシコ側から見れば、米国からの移民送金が同国経常収支の改善に与えている影響は近年、大きくなっています。このことは周知のことかと思います。そして移民送金は同国の貧困世帯の家計収入の増加と貧困緩和に一定の役割を果たしてきました。かりに米国で反移民政策が強化されるようなことが今後あれば、メキシコ経済社会にはネガティブな影響も出かねないでしょう。国境の「壁」問題とともに、今後の行く末（動向）を注視したいと思います。（了）

【**編集部注**：所康弘さんには 2018 年 11 月 9 日のメキシコ歴史文化講演会の第 3 回で、「メキシコと国際貿易：NAFTA 再交渉から移民まで」と題して、メキシコと米国の依存と対立の構造要因、NAFTA 体制下の貿易と再交渉の論点、米国社会とイスパニック移民の関係など多岐に亘りお話しを頂きました。】

＊＊＊

# 日墨外交の潮流
# 「戦後日本とメキシコ」
# 戦後期の日墨政治経済関係

神田外語大学教授・副学長
アミーゴ会員　柳沼孝一郎

「明治150年」に当たる2018年は、明治政府の悲願であった完全対等平等条約である「日墨修好通商航海条約」が1888年（明治21年）に締結されて130周年を迎える年でもあった。さらに、同条約によって実践された「榎本武揚メキシコ殖民団」が2017年で120年になる今、前号の第２回講演会報告その１「日墨友好の潮流：近代の日本とメキシコ」につづく本稿では、戦後期における日本とメキシコの政治経済関係の変遷を辿り、今後のありようを考えたい。

## 日墨関係の再開

戦時中に断絶していた日墨外交関係は、メキシコ政府が1945年に日本との交戦状態の終結を宣言、メキシコの国連大使が国連総会において対日講和条約の早期締結と日本の国連加盟を提唱したことを機に回復された。同時にメキシコ政府は戦時中に凍結していた日本公使館の財産を全額日本に返還、これを基に日墨両国の友好関係の促進を目的として56年に「日墨協会」が設立され、多くの在墨日系人の尽力もあって両国の文化交流の場としてメキシコ市に「日墨文化会館」が建設された。さらに、松尾芭蕉『奥の細道』のスペイン語翻訳でも知られ、のちにノーベル文学賞を受賞した詩人オクタビオ・パス（当時は二等書記官）が在日公館長臨時代理として東京に着任、パスの盟友でもあった外交官の林屋永吉と協力し合い、両国の文化交流の礎として「浮世絵版画展」をメキシコで開催、一連の講演会が日本で催された。そして54年の岡崎勝男外務大臣のメキシコ訪問を機に、同年に「日墨文化協定」が調印され、学術文化交流の源泉が生まれた。

経済面では日本からの技術移転、とりわけ技術者のメキシコ移住が開始され、57年には日本貿易振興会（JETRO；現日本貿易振興機構）によって「第１回日本産業見本市」がメキシコ市で開催された。住友商事や三菱商事、東京銀行などの企業進出、豊田自動織機製作所とメキシコ開発銀行の共同出資による「メキシコ豊田株式会社」および武田薬品工業の現地子会社である「メキシコ武田株式会社」などの設立が顕著であった。

## 60～70年代の政治経済関係

1960年代は、62年のロペス・マテオス大統領の訪日、「メキシコ日本商工会議所」の発足、66年のメキシコ貿易使節団の訪日、「メキシコ電力拡張プロジェクト」に対する借款供与の契約、そして69年に「日墨通商協定」が調印された。特筆されるのは、61年に日産と丸紅が共同出資して「メキシコ日産」を設立、65年にはクエルナバカに工場を建設し、翌66年からブルーバードのノック・ダウン生産を開始したことである。

70年代の日墨関係は、74年9月に田中角栄首相がルイス・エチェベリア大統領と会談、両国の経済交流が促された。78年9月には土光敏夫経済団体連合会（経団連）会長がロペス・ポルティージョ大統領を訪問、翌10月にはポルティージョ大統領夫妻が国賓として来日、福田赳夫首相と会談し、産油国メキシコと先進技術国日本が相互に補完関係にあることが確認された。

79年1月には、田口連三経団連副会長を団長とする大型ミッションがメキシコを訪問、製鉄所拡充強化を中心とした協力について話し合われた。5月には経団連ミッションが訪墨、太平洋側のラス・トゥルーチャス地域のシカルツァ製鉄所を中心とする「ラサロ・カルデナス開発プロジェクト」が構想された。7月には、メキシコ石油公社セラーノ総裁を団長とする経済ミッションが訪日、サリナ・クルス港整備およびシカルツァ製鉄所の建設工事に対する総額2億2,500万ドルの借款が調印された。翌8月には、江崎真澄通産相と園田直外相がポルティージョ大統領と会談、「ラサロ・カルデナス製鉄所建設プロジェクト」への資金および技術面での協力が表明され、79年末に永山時雄昭和石油社長を団長とする石油ミッションが訪墨し、日本企業36社の共同出資によって「メキシコ石油輸入株式会社」が設立された。

## 80年代の政治経済関係

80年代は、日墨両国間において政財界の交流が活発化した時期であった。80年3月には、土光経団連会長はじめ田口メキシコ経済委員長、永山メキシコ石油輸入社長、原田鼎新日鉄副社長の一行が訪墨した。5月には、大平正芳首相がポルティージョ大統領と会談、メキシコの鉄鋼プロジェクトにおける全面的な協力が確認され、両国の相互理解を増進する目的で日本側からの100万ドルの基金を基に「日本メキシコ友好基金」いわゆる「大平基金」がメキシコに設立された。

81年1月、田中六助通産相はポルティージョ大統領と両国の経済協力関係の促進について意見を交換、5月には「メキシコ日本産業技術見本市」がポルティージョ大統領出席のもとに開催され、10月には第13回「日本メキシコ経済協議会」がグアダラハラで開かれ、技術協力および金融援助、合弁事業、技術移転、エネルギーおよび電力の開発促進などが討議された。翌82年には、石原俊日産社長を団長とする経団連代表団が訪墨、ポルティージョ大統領はじめミゲル・デ・ラ・マドリー次期大統領らと会談し、アグアスカリエンテ

スの日産自動車の工場増設を中心に日本の対メキシコ投資は10億ドルに達したことが確認された。

83年1月には、ヘスス・シルバ・エルソグ蔵相が、3月にはセプルペダ・アモール外相が訪日した。また、84年の安部晋太郎外相の訪墨を機に、両国のあらゆる問題を討議する「日本メキシコ賢人会議」（正式名「日本メキシコ長期展望作業グループ」）が設立され、投資、貿易の促進、エネルギー分野および科学技術協力などが検討された。

87年5月にはサリーナス・デ・ゴルタリ計画・予算相（当時、のちにメキシコ大統領に就任）が大統領特使として訪日、5月11日には、榎本メキシコ殖民団を記念する「日本人メキシコ移住90周年記念祭」がメキシコ市において、デ・ラ・マドリー大統領、高円宮、セプルペダ外務大臣ら出席のもとに開催された。さらに翌88年8月の「日墨修好通商条約100周年」に際し、宇野宗佑外相がサリーナス大統領と会談、投資・貿易の拡大、対外債務問題解消に向けての協力が合意された。

## 90年代から現代までの政治経済関係

90年代初頭の日墨両国の経済関係は日本からの投資が顕著であった。80年代の経済危機の後においても日本企業の投資が継続され、日本からの累積投資額は、自動車、自動車部品、エネルギー、電機電子、鉱業などを中心に15億ドルを上回る水準となった。さらに、日墨両国の経済関係を拡大強化する目的で92年に「日墨21世紀委員会」が設立された。その後、二国間自由貿易協定の交渉開始が模索され、与謝野馨通産大臣によって「自由貿易協定分析グループ」が通産省内に創設された。

さらに、1897年（明治30年）に実施された「榎本武揚メキシコ殖民団」を顕彰する「日本人メキシコ移住100周年記念式典」が97年5月8日から21日までメキシコ

（日本人移住100周年記念式典：セディージョ大統領挨拶＠日墨会館）

市およびチアパス州のタパチュラ市（同市にCASA DE LA CULTURA MÉXICO JAPONESA：日墨文化会館を建設）、エスクィントラ町（同町にCASA DE LA CULTURA EDOMURA：文化交流会館江戸村を建設）を中心に大々的に開催されたのを受けて（筆者は運営委員として参加）、1997年を「日墨関係の新たな100年の幕開け」と位置づけた。97年のエルネスト・セディージョ大統領の訪日を機に、同大統領より「日墨自由貿易協定（FTA）」が日本企業に提唱された。

2001年には小泉純一郎首相とビセンテ・フォックス大統領の会談が東京で持たれ、自由貿易協定研究グループが発足された。02年10月27日、小泉首相とフォックス大統領はメキシコのロス・カボスにおいて会談、両国間の経済連携を一層強化することの重要性が確認され、04年9月17日にメキシコ市にて、小泉首相とフォックス大統領は「経済上の連携の強化に関する日本国とメキシコ合衆国との間の協定」、いわゆる「日本メキシコ経済連携協定（日墨EPA）」に署名した。

両首脳は共同声明のなかで、「400年以上にわたる両国国民の友好関係を想起し、日本とメキシコが政治、経済及び文化の分野で永続的な協力関係を発展させてきたことを認識する。長年にわたる両国関係に基づき、日本とメキシコは、両国及び国際社会の安定、安全及び繁栄への貢献という共通の責務を果たす決意である」と表明した。そして最後に、「日本とメキシコとの間の経済的な絆の強化により、日本と中南米との経済関係及びメキシコとアジアとの経済関係が促進され、太平洋を越えた貿易投資関係に新たな刺激が与えられるとの見解を共有する」と述べ、「我々は、両国が経済交流を活性化することにより、アジア太平洋地域の繁栄に共に寄与すると確信する」と結んだ。

## 結びに

1609年9月30日にヌエバ・エスパーニャ（スペイン植民地時代のメキシコ）の大型帆船ガレオン船「サン・フランシスコ号」が御宿岩和田田尻海岸に漂着、それを機に日本とメキシコの交流が開始されたが、それから400周年を迎えた翌年の2010年1月31日にフェリペ・カルデロン大統領が来日した。2月1日にカルデロン大統領と鳩山由紀夫首相とで会談が持たれ、「二国間協力の強化について日墨EPAが大きく貢献している」ことを評価した上で、「メキシコが日本の中南米における輸出先として主要な地位を占めていること、日本がアジア太平洋地域における最大の対メキシコ投資国であること、メキシコにとっては第三位の貿易相手国であること」が確認された。

21世紀に入ると、グローバリゼーションすなわち国境を越えた経済的なつながりが拡大し、民族・人種・文明など社会的文化的な面での関わり合いも加速度的に高まった。人口流動によって国境を越えて広がるトランスナショナルな文化的共同体「ディアスポラ」が出現する時代にあって、国境を越えて活動する多国籍企業や自由貿易協定（FTA）や経済連携協定（EPA）あるいは米州自由貿易地域（FTAA）などはその象徴であろう。その意味で、日墨経済連携協定は両国関係にさらに新しい時代を開くものとして期待される。

保護主義的な姿勢をとるトランプ大統領によって米国が環太平洋経済連携協定（TPP）から離脱し、さらには北米自由貿易協定（NAFTA）に代わる新たな三カ国貿易協定「米国・メキシコ・カナダ協定」（USMCA）が合意され、メキシコ・コロンビア・ペルー・チリの加盟国で「太平洋同盟」（Alianza del Pacífico）が推進されるなかで、日本とメキシコの今後の関係を考える今こそ、日墨経済連携協定の精神を再認識すべきであろう。日墨両国が長年にわたって培ってきた政治的、経済的、文化学術的そして移住の交流があり、メキシコには大規模な日系社会が存在しているからである。21世紀の日本とメキシコの関係において両国に託されるのは、まさに日墨修好通商航海条約の歴史遺産とその後の日墨外交の伝統に立脚した、健全かつ発展的な関係と対等のパートナーシップを構築することだからである。＜完＞

←創立40周年を祝うリセオ(日墨学院)の生徒たち 2018年10月

活動報告

メキシコ・日本アミーゴ会

# 2019 年度総会・懇親会の報告

アミーゴ会事務局長　笠井道彦

総会・懇親会は 2019 年 3 月 9 日（土）11：30 より 14：00 まで代官山の老舗メキシカン・レストラン、ラ・カシータにて、大使館より参事官・文化担当一等書記官 Emanuel Trinidad 氏をお迎えし、会員 51 名が参加して盛大に開催されました。

## 2018 年度決算

上原会長より開会の挨拶があり、2018 年 12 月発足のロペス・オブラドール新政権の支持率は高位安定するも改定 NAFTA（USMCA）の行方と併せて注視すべきことが述べられ、民間の交流深化に務めるアミーゴ会活動への会員支援の強化が要請されました。続いて笠井事務局長より 2018 年度決算報告がなされました。

2018 年度の会費収入は会員 155 名分に御宿アミーゴ会の 2 万円を加えた 485,000 円、懇親会会費等 260,000 円、HP 広告費 10,000 円など、収入合計 755,004 円との説明がありました。

他方、支出は総会・懇親会 260,000 円、懇親会追加費用 91,511 円、講演会事業 90,000 円、フィエスタ・メヒカーナ協賛金 108,000 円、その他諸経費を加えて支出合計が 873,533 円になりました。その結果、差引収支（期間損益）は-118,529 円となりました。

南郷監査役から監査報告として、全ての書類・口座等を監査の結果、適法にして正確なることを認め、正しく決算に反映されたとの報告がありました。

## 2019 年度予算

2019 年度予算の説明で笠井事務局長は、収入は会費収入 470,000 円(150 名 x3,000 円＋御宿 20,000 円)、懇親会費 200,000 円、金利 4 円を計上し、合計 670,004 円を見込むと説明しました。

他方、支出は事業予算として総会・懇親会に 200,000 円、懇親会諸費に 115,000 円、20 周年記念等特別事業に 300,000 円、講演会事業費 4 回分で 120,000 円、またフィエスタ・メヒカーナ協賛金は前年同額の 108,000 円を計上したと説明しました。その他ゴルフ交流会補助金 50,000 円、西日本懇親会補助金 20,000 円、通信費・郵便料 40,000 円、ウェブサイト維持費 20,000 円、西日本幹事会への出張費 38,000 円(新幹線代 28,000 円＋宿泊費 10,000 円)、東京幹事会経費 30,000 円、会報編集取材交通費 50,000 円、アミーゴ会運営費 50,000 円（交通費他事務局長活動費）を計上し、支出合計額は 1,187,000 円との説明がありました。この結果、当期損益は 516,996 円の赤字を見込むことになりました。

## 2018 年度事業報告・2019 年度事業計画

2019 年度事業計画について、2018 年事業報告に加えて担当幹事よりそれぞれ説明がありました。

メキシコ歴史文化講演会については、担当の森幹事が所用のため河嶋幹事が 2018 年度の事業概要を報告しました。2018 年は「日墨修好通商航海条約」が 1888 年に締結されて 130 周年となることを統一テーマに、カルロス・アルマーダ大使が第 1 回講師として「メキシコと日本：外交関係の 130 年」を講話されました。第 2 回は神田外語大学の柳沼孝一郎氏が「日本とメキシコ：日墨友好 130 年の歩み」を、第 3 回は明治大学の所　康弘氏が「メキシコと国際貿易：日米との関係」を話され、併せて NAFTA がどう変わるかの解説がありました。第 4 回はノンフィクション作家の山本厚子氏が「日墨文化交流のパイオニア～北川民治と佐野 碩」について語られ、美術・芸術分野での 1921 年からの日墨交流を知りました。また計 4 回の講演会で延べ 160 人余の出席を得たことが報告され、各講師の執筆になるエッセンスを「アミーゴ会だより」に連載中であることが紹介されました。

2019 年も現在、森幹事を中心に演題と講師の選定中であり近々成案出来次第案内されると報告ありました。

ゴルフ交流会事業について担当の南郷幹事より、2018 年は都合により開催されなかったが、2019 年には上原会長のお世話にて 7 月 2 日に湘南カントリー倶楽部で親善ゴルフ大会が開催されるとの説明があり、案内文書が配布されました(本誌 3 ページ参照)。

会報「アミーゴ会だより」について編集人の河嶋幹事より、2018 年も関係者の協力を得て年 4 回発行できたことが報告され、2019 年も会員諸氏の力作投稿を期待することで年 4 回の発行を目指す方針が述べられました。同時に新編集人の募集告知と投稿の協力要請がなされました。

## 決算・予算の承認

事業の報告と計画の説明が終わり、上原会長より 2018 年事業・決算（総会承認案件）と 2019 年事業計画・予算（同報告案件）を併せて総会出席者にお諮り願い、賛成多数でご賛同・ご承認を頂きました。

## 会長の交代と幹事の異動

総会承認事項としての幹事の選任・退任等について、上原会長より総会に下記の報告がされました。

[会長の交代]　先ず、上原会長が昨年 5 月 11 日の幹事会で会長辞任を表明され、会則 13 条に基づき幹事会の互選により河嶋幹事に会長代行が委嘱されました。会長の正式交代は本 3 月総会での報告を経て確定させることになり、改めて本総会に報告されました。

[幹事の退任]　また、昨年中に退任された幹事は、鴻巣幹事・副会長（8 月 8 日付）、瀬下幹事（5 月 31 日付）、岩崎幹事（9 月 10 日付）、鹿内竣一幹事・副会長（9 月 10 日付）で、これら 4 名の幹事退任を総会に報告し、アミーゴ会の発展に尽くされた 4 方のお力添えに改めて感謝の意が表明されました。
[新幹事の就任]　幹事選任については、昨年 5 月 11 日の幹事会で吉野 隆さんと市井勇人さんの幹事就任が推挙され、本総会での承認を得て、お二人が新しく幹事に正式に就任されることになりました。
[西日本代表の交代]　なお、西日本アミーゴ会の代表は鹿内代表から市井代表に交代し、事務局長は伊藤宜則さんが引き続き務められます。
[幹事の再任]　任期 2 年を迎える幹事・監査役の再任については、現在の森　和重、日笠　徹、石井あけみ、下條宗男、南郷茂伸、笠井道彦、河嶋正之の 7 名の再任が承認されました。
　また、監査役を南郷幹事に、事務局長を笠井幹事に委嘱し、メキシコ市在住の遠藤滋哉さんにはメキシコ代表としてのご協力を引き続きお願いするすることが報告されました。

## 上原名誉会長の就任

　上原前会長には 15 年の長きにわたりアミーゴ会会長としてご活躍ご貢献を頂き改めて感謝申し上げると共に、これからも名誉会長として会の運営を側面からご支援くださるようにお願いしたい、として河嶋会長より幹事会としての上原前会長の名誉会長就任提案が総会になされました。
　具体的には、会則第四章 11 条に「名誉会長」を追加し、「幹事会の承認を得て名誉会長、顧問及び会友をおくことができる」と会則を改定したいとの提案があり、満場一致で承認されました。

## 河嶋会長の就任挨拶

　メキシコ・日本アミーゴ会は純然たるボランティア団体であり、会員の皆さまが持てる力を持ち寄り発揮していただいてこそ、会の目的＝日墨の友好親善の増進に寄与する（会則第 3 条）を実現できます。会の運営に際しては、会員相互の親睦増進を第一に第 4 条に定める諸々の活動を進めて参ります。皆さまお一人お一人のお力添えを期待します。
　アミーゴ会は 2000 年 9 月に発足しました。幹事会は今年、20 周年記念昼食会を 9 月 21 日に第 20 回 Fiesta Mexicana 2019 開会式と同時開催すべく計画しています。ご期待ください(開催素案は 3 ページ参照)。
　自己紹介：メキシコ駐在経験は 2 回計 8 年に及び、最初は日墨 EPA 萌芽の時期(1997 年 3 月)から 3 年余、次は政府間交渉決裂直後(2003 年 10 月)から 4 年余。2004 年 4 月の EPA 発効後は新しい経済関係構築に向けた事業を展開することで、08 年 4 月の帰任まで各界のご協力を得て仕事を進めることができました。
　メキシコではロペス・オブラドール大統領が昨年 12 月に就任しました。国民の支持は現在も高く、大統領に寄せる期待の大きさを物語っています。毀誉褒貶は世の倣いとはいえ、新しいメキシコづくりへの確かな一歩と変化であろうと確信しています。
　総会終了後懇親会に移り、**Trinidad** 文化担当一等書記官から日本語とスペイン語によるご挨拶を頂いた後、マリアッチ演奏も加わり和気藹々と楽しく語り合い、トルティーヤに舌鼓をうち、杯を交わしながら時の経つのも忘れるひとときとなりました。　　＜了＞

2018 年決算および 2019 年予算

（単位：円）

| 収入の部 | 2018 年決算 | 2019 年予算 |
|---|---|---|
| 会費収入 | 485,000 | 470,000 |
| （注） | 155 名分+御宿 | 150 名分+御宿 |
| 懇親会 | 260,000 | 200,000 |
| 広告料 | 10,000 | 0 |
| その他（受取金利） | 4 | 4 |
| **収入計** | **755,004** | **670,004** |
| **支出の部** | **2018 年決算** | **2019 年予算** |
| 総会・懇親会 | 260,000 | 200,000 |
| 総会・懇親会諸費① | 91,511 | 115,000 |
| 20 周年記念事業費② | 0 | 300,000 |
| 講演会事業費 | 90,000 | 120,000 |
| ゴルフ交流会補助 | 0 | 50,000 |
| フィエスタ・メヒカーナ補助 | 108,000 | 108,000 |
| 通信費・郵便料 | 34,170 | 40,000 |
| コピー代 | 11,905 | 12,000 |
| WEB サイト HP 維持費 | 16,100 | 20,000 |
| 西日本幹事会出張費 | 31,624 | 38,000 |
| 幹事会(東京)会場費③ | 29,580 | 30,000 |
| 西日本懇親会補助金 | 20,000 | 20,000 |
| 編集取材交通費 | 50,000 | 50,000 |
| 事務局特別交通費 | 50,000 | 50,000 |
| 事務用品費 | 28,859 | 30,000 |
| 事務局特別清算金 | 47,788 | 0 |
| 振込み手数料 | 3,996 | 4.000 |
| **支出計** | **873,533** | **1,187,000** |

| | 2018 年決算 | 2019 年期末 |
|---|---|---|
| **当期損益** | -118,529 | -516,996 |
| **前期繰越額** | 2,723,355 | 2,604,826 |
| **次期繰越額** | **2,604,826** | **2,087,830** |

①諸費には飲食費(3.5 万円)と楽曲(8 万円)の補助を計上。
②20 周年記念特別事業費と駐日メキシコ新大使・駐墨日本大使等との会議費を計上。
③幹事会(東京)の会場費@4,500 円×定例 3 回＋交通費補助 1,000 円/人×幹事 10 名×年 3 回(出席率 60%)を計上。なお臨時幹事会費用は未計上。

【**事務局よりお詫び**：総会準備に際して、会場の定員を十分考慮せずに出席受付を始めたところ、予想外に大人数の参加申し込みとなり、最終的に会員お二人に参加をお断りしなければならなくなりました。かかる不手際について重ね重ねお詫びを申し上げます。
今後は同様の手違いを繰り返さぬよう注意して会場の選定等をさせて頂く所存です。ご理解をお願いします。】

活動報告

# 西日本アミーゴ会：2018年活動報告

メキシコ・日本アミーゴ会西日本地区
西日本代表・幹事　　市井勇人

メキシコ・日本アミーゴ会西日本地区は、東京のメキシコ・日本アミーゴ会に遅れること3年後の2003年にスタート致しました。関西地区は東京に比べると、会員数も27名と少なく、講演会のようなイベントを催す場所も探すのが難しいこともあり、活動はどうしても限られてしまいます。そのような環境の中で唯一の活動がアミーゴ会関西地区創設以来16年に渡って開催されているメキシコ・日本アミーゴ会西日本地区総会・懇親会です。

これは、毎年大阪新梅田シテイ・ワンダースクエアで開催されるフィエスタメヒカーナ大阪に合わせて開催されています。2018年は9月の3連休の真ん中、9月15日の土曜日に梅田スカイビルB1の「和心旬彩」で開催致しました。ここは毎年利用している所であり、気心も知れている和食レストランです。

今回も恒例のフィエスタメヒカーナを楽しんでから総会・懇親会にと続くスケジュールでしたが、残念ながら先の台風21号の後遺症による会場の安全確保が心配されたため、フィエスタメヒカーナは中止となりました。

それでもメキシコを愛し、メキシコが大好きなアミーゴ会会員とその知人・友人20名がアミーゴ会西日本地区総会・懇親会に集いました。更に今回は河嶋現メキシコ・日本アミーゴ会会長にも東京から駆けつけて頂き、フィエスタメヒカーナ中止の落胆はあったものの、集いし20名はいやがおうにも盛り上がりました。

定刻の18時となり、2018年の6月から前任の鹿内西日本地区代表よりバトンタッチした新任の市井代表の開会挨拶で幕を開けました。

その後、河嶋会長のご挨拶および大変に興味深いメキシコ関連、アミーゴ会関連の話として日墨EPAやTTP、NAFTA再交渉の話等を約１時間弱拝聴させて頂いた後に、続いて前代表の鹿内さんによる乾杯の音頭と続き、乾杯の後は美味しい料理に舌鼓を打ちながら、各テーブルはメキシコの話題で大いに盛り上がり、一気に参加者のボルテージも上がってきました。

今回は料理についても、このレストランが入居する梅田スカイビルを管理運営する積水ハウス梅田オペレーションの鈴木社長が市井代表の高校の同級生と言うこともあり、グレードアップしてくれました。

美味しい料理とお酒に酔いしれて会話も盛り上がった頃、毎年恒例の行岡京子さんのギター演奏と歌のコーナーに入り、メキシコの名曲「ソラメンテウナベス」、「ベッサメムーチョ」、昔の映画音楽「黒いオルフェ」等々が演奏され、参加者は、ほろ酔い気分で演奏曲にうっとりと酔いしれていました。

あっという間に予定時間の二時間が過ぎて、懇親会お開きの時間となりましたが、名残惜しくまだ席に残って会話をされている参加者も見受けられました。

東京から駆けつけて頂いた河嶋会長、ありがとうございました。

そして参加された皆様、楽しいひと時に盛り上げて下さり、ありがとうございました。

今年もまた大いに楽しく盛り上がりましょう！
¡Hasta Luego!

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

メキシコ料理と歩む：連載４

食の世界遺産

# メキシコ料理へのアプローチ

メキシコ料理店　La Casita
オーナーシェフ　**渡辺庸生**

日本におけるメキシコ料理のパイオニア La Casita(ラ・カシータ)のオーナーシェフ渡辺庸生さんに、ユネスコ食の世界遺産に指定された多様なメキシコ料理文化の真髄を縦横無尽に語っていただきます。どのようなお話しが飛び出すか毎号のお楽しみです。La Casita の HP:http://www.lacasita.co.jp/menu/sugerencia/index.html　（編集部）

## 第 12 章　シェフ渡辺が新人研修の講師に

「今日は渡辺さんに元気を貰いに来ました」。度々、こんな言葉を何人もの常連客からかけられる。30 年以上の顧客達からしてみれば、通い慣れた行きつけの店は、美味しい食事と団欒（らん）、そして癒しの場所であるはず。本来なら、店側が彼らに感謝をし、心地よいサービスを提供するのが道理であろう。

常連客に訳を聞いてみると、私の人生観が理由らしい。メキシコ料理の啓蒙に邁進するだけで無く、前向きで全ての現実を捉えて行く生き方に共鳴を覚えるとの事である。そう言われてみれば、何年、何十年、来店していようと、相手がどのような人物なのか詮索も

せず、時には自己体験からの説教じみた話が常だった。唯、一度しか無い人生、どの現場にいようと、自分と向き合わないと勿体無いと思っているので、ついつい仕事に疲れているのを感じると、「人は人、我は我、中々線引きは難しいが、成るようにしか成らない」などと、教理を説くかのように接してしまう。

それぞれが選んだ学業、仕事、自分が出来る事で相手が喜ぶのであれば、その道筋に励めるはずである。不平、不満を言う暇があったら、事実を受け止めて、其処を乗り切る積極性が不可欠と考える。飲食店の主人にしては珍しいと、誉め言葉かどうか判らないが、個々に誰しもが心の奥底に持っている気持ちではないだろうか。

その依頼は、暮れも押し迫った 2009 年の 12 月の頃だった。30 年来の常連客に、授業の最後に全員から拍手を頂いた共立女子大での講義の様子を話していると、突然、「うちにも来てもらえませんか？」と立ち上がり、両肩に手を置かれた。どこの大学か解らなかったが、メキシコ料理の講義なら断る手は無い。

ご挨拶は初めてになりますが、と差し出された名刺には、総務省、大臣官房秘書課、課長補佐と記されていた。彼の口から出た言葉は「来年度の新規採用職員研修の講師を是非お願いしたい」。驚いた、とんでもない事態である。とても私なんかが勤まる現場じゃ無いでしょうと固辞していたら、実は、毎年、心理学、精神科医の先生方に来て頂くのですが、何人かが鬱(ウツ)になったり、辞める人や、中には自らの命を絶つ者までいる状況です。渡辺さんの人生における気持の持ち方は、この私でさえいつも元気になります。現状の肯定をテーマに話して頂ければ有り難いです･･･。

面白いと思った。度胸とか名誉とは無縁の心境だった。自身の話が役に立つなら、こんなに嬉しいことは無い。この機会を逃がしたら、霞が関の省内なんて生涯、拝めるものじゃない。経験して見たい欲がフツフツと沸いて来た。やりましょう。他の職員 3 名も立ち上がり、全員と固い握手で承諾をした。果たしてどんなドラマが待っているのか、未知の世界へ向かう期待感が大きく胸に膨らんで来た。

## 第 13 章　新人公務員に個人であれ！と説く

2010 年 4 月 14 日午後 1 時、霞が関の駅で出迎えを受け案内された総務省の建物には警察庁も入っており、各省庁が立ち並ぶ周辺の中でも一際その存在感を示していた。重要な警備体制の正面玄関、中央の吹き抜け部分の回りを各階ごとに行政評価や統計の局が無作為に配置され、最上階の大臣室を含めてまるで迷路の様である。用意された 30 畳ほどの控室にも驚いたが、引っ切りなしに各局の課長さん達が名刺を片手にご挨拶に来室される。事前に了解は得ていたとは言うものの、ネクタイも着用せず、Tシャツに黒のブレザー、スニーカーで訪れた民間の一料理人は彼等の目にどう映ったのだろうか？担当官との進行打ち合わせでも、慣例の起立、礼はお断りした。失礼極まり無い態度ではあるが、これまでの慣習打破の観点に繋がればとの思いはあった。地下講堂で待機する新規採用職員達の様子を窺って見た。早朝から何時間も公務員の心構えの研修を受けて来た緊張感からか、皆、難（かた）い表情に感じられた。厳しい競争を駆け上がって来た中で、それぞれ如何に自分を投影出来るかの人生が始まろうとしている瞬間である。私に与えられた役割は現場の彼等に希望の光を灯すこと、講演の時間が迫って来ても自身の気持ちは妙に冷静だった。演壇も退かせて貰い、略歴紹介、講師に選ばれた経緯等、一通りの流れの後、檀上から一脚の椅子とマイク一本で講話がスタートした。

学生時代の社会情勢、アルバイトで気付いた転職、就職してからの上司との軋轢(あつれき)、そして苛(いじ）め、場違いな私が何故、講師を務めているのか、戸惑いがあったに違いないが、60 人全員が正面を向き、ノートに克明に記録して行く情景を見た時に思わず声に出していた。「君たちの資質より環境に問題があるように思う、上司を呼んで聞いて貰った方が呼ばれた意味がある」と。大きな拍手が起きた。何人もの顔が和らいでいた。提案をしてみた、省の規律がどれほどのものかは知らないが、机の片隅や引き出しの中に物でも写真でも自分の景色を置いてみてはと。横に居た職員が手を挙げた。「先生、それはどれくらいの大きさまで？」。呆れて答えていた。「まさか、そんな大きいものを置かないでしょう！」場内に笑いが広がった。国の職務を担う重責はかなりのものだと想像するが、一個人であって欲しい、将来を楽しみに頑張って下さい。こうして 90 分の時間が過ぎ会場を出た時だった。一人の女子が質問してきた。幼いころから絵が好きだったが、両親が就職を機に止めろと言っている、描かない方が良いのでしょうか？描いている時が楽しいのだったら、激務を熟（こな）す合間に描いたらと答えると、突然、有り難うございますと泣き出した。組織の大きさに我を失う不安があったのかも知れない。3 年後、一人も鬱（ウツ）になっていませんと当時の担当官から報告が来た。

## 第 14 章　メキシコ料理と修学旅行が結ぶ感動の輪

「修学旅行」。広辞苑によれば児童、生徒らに日常経験しない土地の自然、文化などを見聞学習させるために教職員が引率して行う旅行とある。私の時代は訪問先の名所、旧跡等を巡る旅だったが、1990 年代後半くらいから少し内容が変わって来たようだ。秋田の私立中学校の先生から電話を頂いたのは 1996 年の 9 月の頃だった。来月、東京に宿泊した折、生徒にメキシコ料理の食文化をレクチャーして頂きたいとの依頼である。クラス 50 人が 6 チームを組み、それぞれが国を一つ選び、その国の食をリサーチする試みだと説明を受けた。確かに東京には世界を網羅する数多くの料理店が存在しているが、メキシコを選んでくれたのには驚いた。後日訪ねて来た 8 人の子供達は自らの小遣いで一品ずつオーダーし、用意して来た質問を問いかけ、私の講義を克明にノートに記録していった。数千年に及ぶ独創的な食の軌跡に付随する和食との共通点、

各々の食材が世界に寄与した貢献の歴史、集落で紡がれた家族の絆等、テーマは尽きること無く、あっと言う間に約束の 2 時間が過ぎていた。話が興味深かったのか、彼等の眼差しは喜びと充実感に溢れ、本当に嬉しそうだった。一週間後、個々の生徒からの丁寧なお礼状が届くと、担任の先生からも連絡を受けた。「レポート発表の際、あの子達は意気揚々と自慢げに報告していました。有り難うございました」と、彼女自身が一番感動していた。

その出来事がどう伝わったのか、それから数年後、秋田だけで無く岩手や青森など東北各県の中学校から毎年同じ依頼を受ける事態となる。教育現場に携わる経験は自分にとっても有意義な時間だった。そう言えば、以前、2002 年春、北海道帯広で農業、畜産、酪農の生産者達を招いてのメキシコ料理披露の体験を書いたが、帯広市立柏小学校からのユニークな申し出もあった。ラ・カシータの厨房と教室の児童達がチャットで会話しながらメキシカンライスの仕込をＰＣ授業で見せるというものである。日本の主食である米がメキシコではどのように食されているかが題目で、非常に面白い企画であった。生米を油で揚げたり、トマト、レモン汁、小海老や鶏肉を加えてゆく様、弱火のオーブンで蒸らすように仕上げる調理工程は子供達の想像を超えたようで、興味津々の質問が矢継ぎ早である。慌ただしい時間はすぐに過ぎ、無事に役目は完了した。

中南米の事情を教科書に採用しない文部科学省の方針が変わらない限りは、中々メキシコや他の国々に精通する機会は少ないが、私の立場としては料理店を通じて何かしら関心を持って貰えるなら本望である。

翌年、もう一度帯広で料理講習を頼まれ、空港から市内へ向かう途中だった。主催者が柏に寄って行きましょうと車を小学校に乗り入れた。校長、教頭先生から是非にと願われ、授業終了間際の教室へ参入した。突然の事態に児童達は大騒ぎである。歓声を静めて少し話を聞いて貰い、将来に期待する言葉で締め括った時だった。「サイン下さい！」の合唱、何と 40 人全員が一列に並んでいた。通常はノートの筈が、中には筆箱や消しゴムの子がいたりして笑ってしまった。彼等の率直な笑顔は心地よく記憶に残っている。

## 第 15 章　わが友フレッド in 札幌

1976 年、渋谷の公園通りに店を構えて間も無くの頃である。一人でふらりと入店した長身の外国人がワカモーレとビーフタコスを注文し、食べ終えた後、いきなり握手を求めて来た。「Perfect!」を連発しながら大喜びの様子に、私も嬉しくなって、どこから来たのか尋ねてみた。彼の答えは、自分が育ったロスーアンジェルスにはメキシコ料理店が沢山あるが、こんなに美味しく作る料理人はいないとべた誉めである。現在、早稲田大学に留学中で、学生だからお金は無いが、又、食べに来ますと上機嫌で去って行った。それから毎月のように来店し、レシピを教えて欲しいと哀願された。サルサやトルティージャのポイント、アボカドの扱い等を丁寧に伝授し、代官山に移転してからも親交は続いていた。

4 年後、北海道からある知らせが届く。若干 27 歳で、何と札幌の繁華街に居酒屋を開店したのである。「麦酒亭」と命名された店は、その名の通り世界のビールを揃え、メキシカンの献立が摘みと謳（うた）っていた。的を得た彼の発想はすぐに評判になり、市民だけで無く出張族まで取り込み、店は大繁盛の一路を辿るのである。数々の地元のイベントにも積極的に参加しては、その明るい人柄で人々を魅了し、やがて名士となるが、胸の内に渦巻いていた事業欲がどんどん膨らんでいた。

Carne asada a la Tampiqueña

酒類販売の資格を取得し、市内にビルを購入して、株式会社「えぞ麦酒」を立ち上げた時、即連絡が来た。「渡辺さん、欲しい物があったら何でも言って下さい」。丁度、その頃、我が店で人気があったテキーラが製造中止となり困っていたので、お願いしてみた。現地まで買い付けに出向き、見つけてくれたそれは、日本酒に例えるなら純米、吟醸タイプ。クォリティーも申し分無いが、名の由来が洒落ている。「Tres Mujeres」、スペイン語で 3 人の女性の意だが、メキシコ人は家族を非常に大事にする、祖母、母親、娘が家を守ってくれるから、男は仕事に精進し、帰宅後の安らぎがある。そんな思いが込められたボトルは皮革で被われ、手作り感溢れる素敵なデザイン。ラ・カシータの料理とも相性も良く、顧客の心を捉えて離さない存在となっている。

振り返れば 39 年の付き合いになるが、東京に来る度に「逢いたい」と電話があり、当初の出会いに感謝していると毎回のように云ってくる。恵まれた関係はこちらの方が心底、謝意を持っている。あの頃はスリムな長身のイケメンだったが、還暦を迎えた今、100kg の体格を持ち、髭を蓄えたその風貌は、まるでサンタクロース、誰が見ても憎めない好々爺になっている。彼の名前は「フレッド」私にとって掛け替えのない大事な友である。　　（連載第 4 回　完）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**あとがき**：AMLO 大統領への国民の支持は依然高く、経済紙 El Financiero は 2 月 7 日付で史上最高の 86%と報じた。年明けの市中ガソリン不足を招いた大掛かりな窃盗（腐敗）対策も 80%の支持率だ。また政権発足 100 日(3 月 10 日)を迎えた時点でも大統領支持率は 79.4%と昨年 7 月の選挙後で最も高く、同時に国民の 73%が「AMLO でメキシコは良くなる」と答えていると一般紙 El Universal は 3 月 11 日付で伝えた。AMLO 氏への強い支持は長年の政治的腐敗に対するメキシコ国民の大きな憤りを物語る。同氏は就任 100 日式典で、公約 100 項目の内 62 項目が実行済みで残りも実施中と述べた。第 4 次変革（4T）を掲げて「新しいメキシコづくり」に踏み出した AMLO 大統領の前途は平坦ではないだろうが、大いなる期待を持って注視したい。アミーゴ会も新体制での船出です。会員各位の一層のご支援を期待。【20190407 か】

# Fiesta Mexicana

19th　2018 in お台場Tokyo

**2018.9/22.23.24.**

2018 年の夏は猛暑と大型台風の襲来で不安定な気候がつづきました。9 月に入ると雨が続き、特に野外で行われるイベントは天候に左右されるので、関係者一同大変心配しておりましたが。前日の設営から初日の午前中は雨に降られましたが、その後回復して 2 日目、3 日目と好天に恵まれ、多くの人達でお台場デッキはにぎわいました。

メインステージ、市場通り、ルチャリブレは、今までと変わらぬ形で進行しましたが、既にこのフェスティバルを目当てに来場する人も多く、このイベントの定着振りもうかがえて嬉しく思いました。2019 年は記念すべき 20 回目となります。大いに盛り上げたいと思います。そしてここに至るまでご協力いただいた関係者の皆様、ボランティアの皆様、ご来場の皆様には心より感謝もうしあげます。これからも頑張りますので、ご支援、ご協力をよろしくお願い申しあげます。

## 市場通り CALLE del MERCADO

**美味しい楽しい食べ歩きは、メキシコ気分！**
**メキシコのカラフルな品々が**
**お客様を楽しませてくれました。**

メキシコの街角を表現した人気の**ルチャリブレ**

## 人気のキッズワークショップ

Círculo Hispano de Narita、Capítulo Japón Red Global MX.、Nichibokubashi
México en la piel、Grupo de mujeres mexicanas residentes en Japón
メキシコ童話の読み聞かせ・ピニャータ作り・ロテリア・カトリーナの化粧法・瓶釣り・輪投げ・民族衣裳で撮影等々

【同時開催】▼▼▼